

しもばしら (ゆきよせそう)



←写真-1

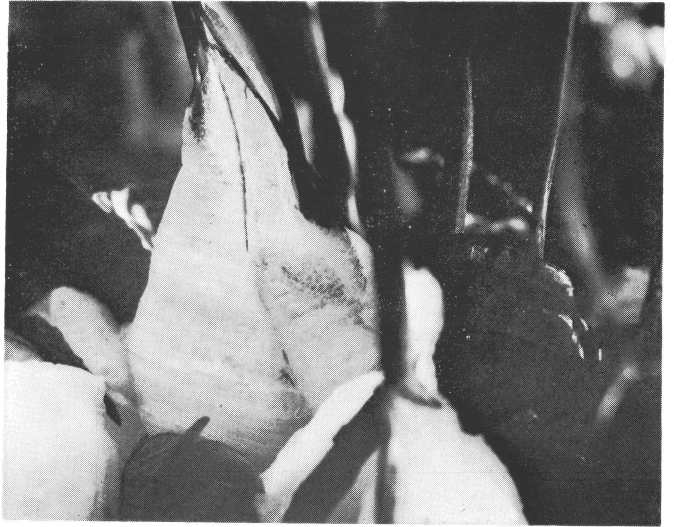
根本に霜柱ができています

(36年11月8日)

写真-2→

霜注の状態

(36年11月8日)



第492圖

くちびるばな科



しもばしら

一名 ゆきよせさう

Keiskea japonica Mig.

山地ニ生ズル多年生草本。高サ 60cm 許ニ達シ、莖ハ方形ニシテ硬シ。葉ハ有柄、對生シ、廣披針形ニシテ尖リ、邊緣ニ鋸齒ヲ具フ。秋日、梢頭葉腋ニ偏側生總狀花穂ヲ出スコト 6-9cm、白色ノ短梗花ヲ綴ル。二形花ニシテ株ニヨリ雌雄葇ニ長短アリ。綠萼五裂シ、花冠ハ淺ク四裂ス。四雄葇花冠上ニ高く超出スルモノト然ラザルモノトアリ。又其雌葇モ株ニ由テ長短アリ。冬時枯レタル莖ヨリ氷花ヲ出ス、和名ノ意味ハ之ニ基ク。

164

←写真-3

牧野：日本植物図かんより



←写真-4

根をつけずに
水にさしておいても発生する

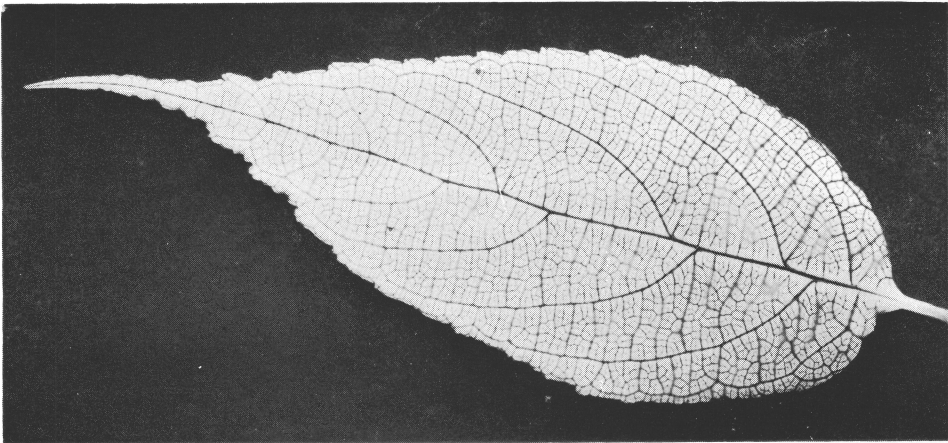


写真-5 ↑

しもばしらの葉の標本

植物の名に気象現象の名を借りたものも少なくない。いわくつゆ・かすみ・風知・雪割草、しかしこのしもばしらほどそのものを表わした草もなからう。初冬、初霜がみえる頃になったらこの草の根もとを注意してみるが良い。地上に近い部分の茎が縦にさけて、そこから霜柱が横向きにできているのを見ることができよう。大きなものでは5センチほどの霜柱に成長している。

1回発生した茎にはさけ目ができてしまい、もはや来冬までみることはできない。この現象はかめばひきおこし（くちびるばな科）にもまた発生する。

これらの草は初霜有無の index としても用いられよう。

気象庁 産業気象課 高砂 学